

研修名 保育実践(物・自然を使った遊び)

平成31年1月23日(水) 10:30~16:15

テーマ 「生き物って面白い part II」

講師 大阪市立自然史博物館 大阪自然史センター 西澤 真樹子 氏

1 講演趣旨

1) 動物園や水族館での豆知識(ヒトと動物の骨は同じ?違う?)

① ホネってなんだろう?

・体の真ん中に骨がない…無脊椎動物

(散らばっている・体の外側を包んでいる・骨がない・

カルシウムではなく、ガラスのような骨)

・地球上では…骨のない生き物95%

骨のある生き物5%

→骨のある生き物はみんな親戚!!

② ホネの「お仕事」

・「柱」筋肉を繋げ、元気に動く体を支える

・「いれもの」頭・内臓などやわらかいものを守る

・「銀行」体に必要なカルシウムなどのミネラルをためておく

・「工場」骨髄で血液のもとになる血球を作る

↳骨で血を作っている!!

③ 子どもと大人のホネの違いは?

・大人のホネの数は…約200個

・ホネの数は…子どものほうが多い(大きさが違う)

・子どものホネは…大人よりやわらかい(だんだんかたくなる)

・いつ、どのように大人のホネになる?

…じわじわ育ち、止まる(20歳頃に完成し、大事に使われる)

④ ホネの進化

・魚類→ヒレ、足っぽいものができる→浅い水辺で「両生類」誕生

→「爬虫類」→足ができてバリエーション増加→鳥類


↳「哺乳類」

(一般的に四足歩行。二足歩行のヒトは珍しい)

・ヒトの爪の役割…力がかかった時、力の背もたれになり、支えになる。

2) 骨やはく製もよく観察してみよう

① 絵本によく出てくる生き物たち

・ゴリラ…頭が大きい(強くかむために骨が出っ張り、筋肉がついている)

- ・クマ…ホッキョクグマは泳ぐためにつるんとした顔になっている。
また、毛は空洞になっていて、空気を含んで保温できるようになっている。
- ・キリン…角は三本あり、首のホネの数は他の動物同様に7本だが、1つ1つが大きい(写真1)
- ・ゾウ…体を支えるために、足はあまり曲げない。
頭が大きいため、首は短く、鼻でエサをとれるようになった。
鼻は上唇とセットになり、長くのびたものである。
アフリカゾウ アジアゾウ
↓ ↓
耳が大きい 耳が小さい
 頭がお尻のような形
※ ゾウの太ももの骨(写真2)
- ・ペンギン…体の場所によってかたさが違う。
体が冷えないよう、膝を曲げて歩いている。
※ペンギンのはく製(写真3)
- ・リス…夏と冬で毛が生え変わる。
フサフサの尻尾→枝から枝へ飛び移るときに役立つ。



2 感想

- ・研修の中で、カタツムリやカメなど園で飼える生き物に触れ、観察する機会があった。その中で、カタツムリの採取場所やカメの甲羅の秘密、飼育方法を知ることができた。クラスでもカメを飼っているため、飼育の参考にするほか、子どもたちが観察する機会を作り、生き物に触れる楽しさを味わえるようにしていく。
- ・骨の仕組みや役割、違いを大人と子ども、動物と比べて知ることができた。また、絵本の紹介を通して様々な絵本に出会うことができた。動物たちの特徴も学んだので、子ども自ら調べてみようとする意欲に繋がられるよう、日々の保育の中で、絵本や話を通して知らせていきたい。

(記録 認定子ども園州見台さくら 塩田倭子)